

守谷市 インクルーシブな公園広場整備のためのガイドライン 概要版

ガイドライン策定の背景と目的

- 「インクルーシブな公園広場」とは、心身の障がいの有無、国籍、年齢に関わらず、どんな人でも利用できる、過ごしやすい公園広場のことです。
- 大規模な改修を行う公園においては、公園の機能を見直したり、遊具やサインなどを更新することが必要になり、これからの公園広場の整備方針について、基本的な考え方や配慮事項を示した「守谷市インクルーシブな公園広場整備のためのガイドライン」を策定することとしました。

インクルーシブ = 「全てを包み込む」



守谷市の公園の現状・課題

- 本市の人口動向として、国勢調査の五次メッシュ統計（一辺250mの格子状に按分したもの）と市内の公園の位置を対応させることにより、公園が所在するメッシュの人口等の傾向を分析します。
- メッシュ分析と公園・広場の現状をもとに、本市の特性を踏まえ、地区を5類型に分類しました。

表6 地区の類型化

	地区類型1	地区類型2	地区類型3	地区類型4	地区類型5
人口増減	増加	横ばい	横ばい～減少	減少	減少
人口密度	高い	中程度～高い	中程度～高い	高い	中程度～高い
年少人口 (15歳未満)	多い	少ない	少ない～中程度	少ない	少ない
年産年齢人口 (15歳以上65歳未満)	中程度	多い	中程度～多い	多い	少ない
老年人口 (65歳以上)	少ない	少ない	中程度～多い	中程度	多い
開発動向 (時期)	新しい	新しい	中程度～古い	中程度	古い
公園開設年度	新しい	新しい	中程度～古い	中程度	古い
地区	守谷(松並)	守谷(中央)	北守谷、南守谷、けやき台、松ヶ丘、立沢、守谷(百合ヶ丘)、守谷(本町)、守谷(むかし野)、鈴原、大松、板戸井、高野	奥園、乙子	みずき野、緑、大山新田、野木崎、大木

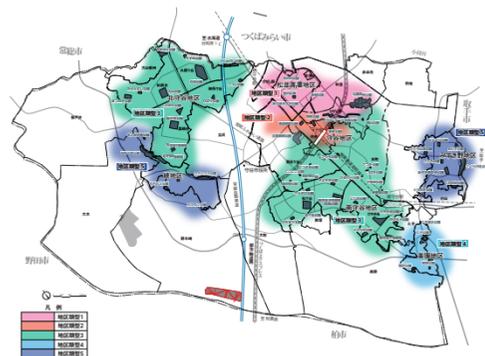


図 地区類型イメージ

(1) 人口動向、土地利用等、地区ごとに異なる地域特性への対応

市民アンケートでは、「公園でボール遊びがしたい」、「自動車で行きたいので駐車場を整備して欲しい」、「安心なトイレを整備して欲しい」等の意見が挙げられていますが、小さい公園でボール遊びをすると、道路への飛び出し等が懸念され、駐車場は小さい公園に整備すると、住宅地内への自動車交通量の増加等も想定されます。そのため、大規模な公園と小規模な公園で適正に役割分担をして、公園機能を配置する必要があります。

(2) 公園利用者、周辺住民の意向への対応

インクルーシブな公園広場は、心身の障がいの有無、国籍、年齢に関わらず、どんな人でも利用できる、過ごしやすい空間にすることが必要であることから、公園利用者、周辺住民の意向に対応する必要があります。

(3) 計画的な修繕・維持管理と、有効活用への対応

守谷市は現在、人口増加の傾向にありますが、将来は全国の動向と同様に減少に転じることが見込まれます。これらを踏まえて、計画的な修繕や維持管理を検討し、公園の有効活用を図る必要があります。

整備の基本的な考え方



本市の整備・管理の基本的な考え方を踏まえて、各公園の現状・課題や、現況調査・敷地分析から得られたことを整理した上で、目標・方針を設定します。

本市全体での整備・管理の基本的な考え方

- 地域特性を踏まえ、誰もが楽しめるアクセスしやすい公園広場の改修・整備
- 地域住民の意向を踏まえ、地域とともに作り、育てる公園広場の改修・整備
- 将来の社会動向も考慮し、利用が進み、適正に維持管理される公園広場の改修・整備

公園広場の整備・改修にあたっては、立地条件や公園の規模の違いにより検討の方法が大きく異なります。来園する人の数や範囲、さらに動線計画や施設計画の考え方も、公園の規模によって異なってきます。そのため、本項では、「大規模な公園」と身近な「小規模な公園」の整備・改修における検討段階の留意点を整理します。

インクルーシブな公園広場整備のポイント

「インクルーシブな公園広場」に配置される遊具・施設は、障がいの有無に関わらず、あらゆる人が、容易に利用でき、多様な選択肢の中で一緒に安全、快適に利用できるものとしします。



遊具については、「あそび」の5つの側面基本構成について考慮し、整備していきます。

表9 現況調査の項目

項目	概要
外部条件	・既存の公園施設、公園周辺の人口、交通等の周辺環境 ・住民意向 ・土地利用に係る制限
内部条件	・バリアフリー動線、出入口 ・公園施設の老朽化の状況 ・インクルーシブな施設になっているかの確認 (園路、出入口が移動円滑化ガイドラインに適合しているか、大規模な公園について、身体障がい者用等駐車場が設置されているか、車椅子対応のトイレになっているか等) ・既存樹木、植栽、水辺環境 ・既存の公園施設

※各公園で外部・内部の状況が異なることから、地区類型1と4を例として記載します。各地区の目標方針と公園規模に応じた主な視点と将来像は概要版2枚目を参照。

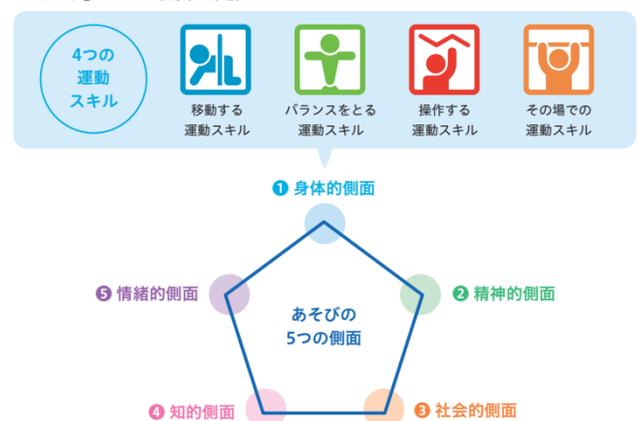
目標方針の例

地区の類型	地区類型1	地区類型4
人口増加、ファミリー世帯増加、整備時期が新しい地区	人口増加、ファミリー世帯増加、整備時期が新しい地区	人口が減少、働き盛り世帯、高齢者世帯共に増加、整備時期が中程度の地区
目標	子どもの遊び場として充実した公園の整備・改修	健康づくりができる公園の整備・改修
主な利用者層	子ども世代	働き盛り世代、高齢者
公園規模に応じた主な視点と将来像	(大規模公園) ・年齢別の遊具施設を整備 ・自然と触れ合えるエリアの整備 ・見守りやすいレイアウト ・見守りスペースの確保 ・障がい者用駐車場の整備 ・安心なトイレの設置 (小規模公園) ・基本的な遊具施設(すべり台、ブランコ等)を整備 ・見守りやすいレイアウト ・見守りスペースの確保	(大規模公園) 対象公園なし (小規模公園) ・低負荷な健康遊具の整備 ・短いウォーキングコースの整備 ・ベンチの整備 ・出入口はバリアフリー化(スロープ設置等) ・適正な樹木の管理(市民協働を検討)
管理運営	市による管理及び公園里親事業、公園維持管理団体事業の活用を含めた検討	市による管理及び公園里親事業、公園維持管理団体の活用を含めた検討

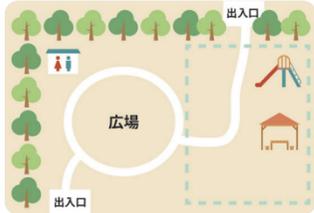
表12 規模別の整備・改修の方向性

公園の種別・規模	整備・改修の方向性
森林公園、近隣公園(2ha)など大規模な住区基幹公園	新設または大規模な改修の場合、大規模な公園でのメリットを生かした機能の配置、ユニバーサルデザインに配慮した施設計画、動線計画(例えば、ボール遊びができる広場、遊具のある広場、休憩できる場所、ウォーキングコース、トイレ、駐車場等)を検討する必要があります。
街区公園(0.25ha)など小規模な公園	小規模な公園における整備・改修の場合、地域特性、身近な住民の意向を踏まえて、導入機能を検討する必要があります。

「あそび」の5つの側面基本構成



地区類型別の将来像（A4版）P40に掲載

	地区類型 1	地区類型 2	地区類型 3	地区類型 4	地区類型 5
	人口増加、ファミリー世帯増加、整備時期が新しい地区	人口が横ばい、働き盛り世帯が増加、整備時期が中程度の地区	人口が横ばい、幅広い世帯が継続して居住、整備時期が中程度の地区	人口が減少、働き盛り世帯、高齢者世帯共に増加、整備時期が中程度の地区	人口が減少、高齢者世帯が増加、整備時期が古い地区
現状	<ul style="list-style-type: none"> ・周辺は新規住宅地であり区画道路に囲まれた立地。 ・ファミリー層が多く、アンケート調査でも遊具施設が求められている。 ・公園は新しく、バリアフリー対応となっている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・駅前の住宅地であり区画道路に面した立地。 ・生産年齢人口が多く、運動が求められている。 ・バリアフリー化が一部されていない公園もある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面的整備が行われたときに遊具施設を中心に設置。 ・バリアフリー化が一部されていない公園がある。 ・広場は、お祭りで利用されており、広場は将来も必要。 ・樹木の密度が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設の老朽化が進行中。 ・バリアフリー化が一部されていない公園がある。 ・年少人口が少なく、遊具施設だけでなく、大人も利用しやすい機能が求められている。 ・樹木の密度が高い。 	<ul style="list-style-type: none"> ・面的整備が行われたときに遊具施設を中心に設置。老朽化が進行中。 ・バリアフリー化がされていない公園が多い。 ・樹木の密度が高い。 
目標	子どものあそび場として充実した公園の整備・改修	身近に運動のできる公園の整備・改修	世代を超えて楽しめる公園の整備・改修	健康づくりができる公園の整備・改修	高齢者も子どもも過ごしやすい公園の整備・改修
主な利用者層	子ども世代 働き盛り世代	働き盛り世代	全世代	働き盛り世代 高齢者	高齢者
大規模公園における 主な視点と将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・年齢別の遊具施設を整備。 ・自然と触れ合えるエリアの整備。 ・見守りやすいレイアウト。 ・見守りスペースの確保。 ・障がい者用駐車場の整備。 ・安心なトイレの設置。 	/		<ul style="list-style-type: none"> ・遊具施設と健康遊具を整備。 ・テーブルベンチを設置し、交流できる休憩スペースを確保。 ・多目的広場の整備。 ・出入口はバリアフリー化。（スロープ設置等） ・障がい者用駐車場の整備。 ・安心なトイレの設置。 	<ul style="list-style-type: none"> ・一部子ども向けの遊具施設を残しながら、低負荷な健康遊具やウォーキングコース等を整備。 ・自然と触れ合えるエリアの整備。 ・出入口はバリアフリー化。（スロープ設置等） ・障がい者用駐車場の整備。 ・安心なトイレの設置。 
小規模公園における 主な視点と将来像	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な遊具施設（すべり台、ブランコ等）を整備。 ・見守りやすいレイアウト。 ・見守りスペースの確保。 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な遊具施設（すべり台、ブランコ等）を整備。 ・日常的な運動習慣を支える健康遊具や短めのウォーキングコース等を整備。 ・出入口はバリアフリー化。（スロープ設置等） 	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な遊具施設（すべり台、ブランコ等）や健康遊具を整備。 ・テーブルベンチを設置し、交流できる休憩スペースを確保。 ・出入口はバリアフリー化。（スロープ設置等） ・適切な樹木の管理。（市民協働を検討） 	<ul style="list-style-type: none"> ・低負荷な健康遊具の整備。 ・短いウォーキングコースの整備。 ・ベンチの整備。 ・出入口はバリアフリー化。（スロープ設置等） ・適切な樹木の管理。（市民協働を検討） 	<ul style="list-style-type: none"> ・見守りやすい遊具施設を整備。 ・低負荷な健康遊具を整備。 ・テーブルベンチを設置し、交流できる休憩スペースを確保。 ・出入口はバリアフリー化。（スロープ設置等） ・適切な樹木の管理。（市民協働を検討） 